

全国から参加300人

6月27日～28日、茨城県水戸市にて第53回医療研究全国集会 in 茨城が開催され、全国から約300人が参加。会場入口では水戸市のマスコットキャラクターみとちゃんが出迎え、参加者を笑顔にしていました。

1日目の全体会では、記念講演と基調フォーラムで日本の社会保障の課題と展望を学び、2日目は12の専門分科会と動く分科会に分かれ研究発表や議論を行い、今後の運動に活かすための実践を交流しました。



集会の原点を実感 第53回医療研究全国集会 in 茨城

ジェンダー視点の働き方
記念講演は、茨城大学人文社会科学部の清山玲教授による「ジェンダー視点で日本の社会保障を考える」と題した講演でした。清山さんは、誰もが幸せに生涯安心して暮らせる頼れる福祉国家の実現には、ジェンダー視点が重要であり、そこには高い就業率と安定した雇用が不可欠と述べました。そして女性が経済的に自立し担税力を発揮できる社会構造にするには、医療福



大山和子さん

第53回医療研究全国集会は、水戸工業高校ジャズバンド部による華やかな演奏で開幕。医療研究全国集会組織委員会の佐々木悦子組織委員長は主催者あいさつで、社会保障が削減され続ける情勢に触れながら、いのちと暮らし、人権が守られる社会の実現を訴えました。現地実行委員長の大山和子茨城県医労連執行委員長は「医療・介護は生きていくために必要な資源。私たち医療労働者自身も地域住民と手を取り、地域づくりに携わることが大切」と述べ、茨城の魅力も紹介しながら歓迎のあいさつを行いました。

基調フォーラムは、「2040年に向けた新たな地域医療構想は、医療・介護・福祉現場に何をもちたか」をテーマに開かれました。長友薫輝佛敎大学教授をコーディネ



清山玲さん

垣根を超えて語る



基調フォーラムの様子



加賀美理帆さん



長友薫輝さん

ーターに、パネリストは加賀美理帆茨城市民医連会長・城南病院医師、篠内信之翠清福祉会専務理事、安本真理子茨城県厚生連労組書記次長・全厚労医療研前委員長が登壇し、報告と意見交換を行いました。医療介護の供給量を減らし、需要が矮小化させられる現状について加賀美さんは、医療や介護へのアクセスを担保することが大事であり、当事者たちと共に声を上げる重要性を提起。篠内さんは、介護保険サービスの多くが、望むサービスに到達していないと指摘。地域住民と率直に問題をやり取りできる仕組みが必要と述べました。安本さんは、その地域で成り立つ医療

Blue Beginners



BlueBeginners は、ステューデントジャズフェスティバル2026優秀賞を受賞する実力派。海外公演もこなし、地元で大人気のバンドです。



茨城県立水戸工業高等学校
ジャズバンド部

全体会の閉会にあたり藤田周茨城県医労連書記長は、AIが重宝される時勢であつても、世の中の問題を解決する術は肉体を持つ人間が集団で



（右）堀越明徳さん
（左）宇留野正志さん
会は茨厚労土浦支部の看護師の先輩・後輩コンビ。「慣れないスーツで緊張した～」

息の合った司会



藤田周さん

動くことであり、それは労働組合運動の実践そのものだと強調。平和で生を全うできる社会のために、私たちの実践を議論・共有し、次回の医療研で実践の続きを持ち寄ろうと、あいさつを述べました。

脈路

半年前、沖縄・辺野古新基地建設の現場を見ました。工事の音しか聞こえない漁港にマイクロバスが2台。本土から来た修学旅行の高校生がちょうど出発する場面でした。高校生たちが笑顔で大きく手を振って見送りに応えているのを見て、高校生たちがここで何を感じ取ったのか、知りたい気持ちになりました▼数カ月後、同じく平和学習に訪れた高校生が船の転覆事故で亡くなりました。人間の尊厳を学ぶ平和学習で尊い命が失われてしまったことに胸が締めつけられる思いです。事故を口実に、政府と反共右派メディアによる新基地建設反対運動と玉城デニー県政への苛烈な攻撃が始まっています▼政府あがての総攻撃は、政府の安全保障政策の矛盾が集中する辺野古の実態を国民から遠ざけるばかりか、旧日本軍が住民に犠牲を強いた沖縄戦の加害の史実、基地が存在するゆえに多発する米軍犯罪までも覆い隠そうとしています。政治的野望を実現するために、高校生の命を奪った痛ましい事故までも利用する高市政権に心の底から怒りを覚えます▼「反社」のような連中に政治を担い続けさせてはいけません。ましてや、やつらが「憲法」に触れるなんてとんでもないことです。戦争か平和か、独裁か民主主義か。日本が重大な岐路に立たされている今、11年前の国会前のような熱狂を再び、奮い立たないわけにはいきません。

「夜勤規制・大幅増員署名」 2025年度 合計約13万筆を提出 財務省・厚労省に団体署名、一言メッセージ等提出

日本医師連本部では、6月30日に「夜勤規制・大幅増員署名」の最終提出行動を実施し、8万6803筆を国会に提出。3月の対政府中央行動での署名提出分と合わせて、2025年度は合計約13万筆を国会に提出しました。

当日は、あいち議員本人に会うことはできませんでしたが、前回の行動で署名を渡せなかった議員11名の事務所を訪問し、引き続きの支援をお願いしながら署名を手渡してきました。

また、署名提出行動と併せて26春闘で取り組んだ「十分な報酬改定の見直しを求める団体署名」「同オンライン署名」「2026春ケア労働者からの一言



メッセージを、財務省・厚労省に提出（内閣府には郵送しました）。

26春闘取り組み提出数

団体署名 1,246筆
オンライン署名 28,092筆
一言メッセージ 1,686通

2025年度紹介・賛同議員応諾一覧 ●紹介議員○賛同のみ											
衆議院				参議院							
氏名	会派	選挙区		氏名	会派	選挙区					
神谷 裕	中道	北海道10	●	木戸 司	立憲	岩手	●				
村岡 敏英	国民	秋田3	●	横沢 高徳	立憲	岩手	●				
小川 淳也	中道	香川1	○	石垣 ののこ	立憲	宮城	●				
西岡 秀子	国民	宮崎1	●	芳賀 道也	民主	山形	●				
渡辺 創	中道	長崎1	●	舟山 康江	民主	山形	●				
長友 慎治	国民	宮崎2	●	杉越 さく良	立憲	新潟	●				
野間 健	中道	鹿児島3	●	杉尾 秀哉	立憲	長野	●				
有田 芳生	中道	(比) 東北	●	羽田 次郎	立憲	長野	●				
堀江 鉄也	共産	(比) 北関東	●	羽田 よし子	立憲	東京	●				
橋本 幹彦	国民	(比) 北関東	●	山添 拓一	共産	東京	●				
高沢 一基	国民	(比) 東京	●	山田 立憲	徳島・高知	●	●				
田村 智子	共産	(比) 東京	●	ながえ 孝子	無所属	愛媛	●				
長野 君枝	共産	(比) 南関東	●	山内 佳菜子	立憲	宮崎	●				
山本ジョージ	無	(比) 南関東	●	尾辻 明美	無所属	鹿児島	●				
菅 浩史	中道	(比) 南関東	●	伊波 淳	立憲	沖縄	●				
星 聡田	中道	(比) 南関東	●	高田 沙哉	立憲	沖縄	●				
堀田 真紀子	中道	(比) 北関東	●	大島 九州男	立憲	北関東	●				
菊田 孝太郎	共産	(比) 近畿	●	奥村 英子	立憲	北関東	●				
飯島 勢理	国民	(比) 中国	●	木村 英子	立憲	北関東	●				
飯泉 嘉門	国民	(比) 西国	●	小池 容子	共産	北関東	●				
許斐 亮太郎	国民	(比) 九州	●	白川 実紀史	共産	北関東	●				
				大田 大輔	立憲	北関東	●				
				仁比 聡平	立憲	北関東	●				
				福島 みずほ	立憲	北関東	●				
				森 ゆうこ	立憲	北関東	●				
				ラサール石井	立憲	北関東	●				

安全、安心の食事提供求め 病院給食対策委員会が厚労省要請

病院給食対策委員会は6月23日に厚労省に対して、①入院時食事療養費②運営形態・不払残業・職場環境改善③人員配置基準④特別食加算・追加料金を伴う特別メニュー⑤栄養相談室設置⑥災害時対応⑦賃金改善・人員不足改善の7点を求め要請を行いました。

入院時食事療養費については、自己負担額が3年連続で増えているため、病院で提供される食事は治療である観点をもって自己負担額廃止も含めた対応を要請しました。

運営形態・職場環境改善では、委託が増えている現状から直営に戻すことを求めました。委託されている現場では、そこで働く職員のやりがいが見られることや、食材費を抑えるため委託業者が安価な外国食材を使うなどの実態を伝え、このままでは安全な給食を提供できなくなる恐れがあり、将来に向けた観点を持ってほしいと訴えました。

特別食加算については、現在含まれていないアレルギー対応食を加算に含めることを要望しました。

賃金改善・人員不足改善については、支援/パッケージや報酬改定では十分な賃金改善に至っていないこと、低すぎる賃金が人員不足の一因になっていること、人員不足によってシフトが回せず前残業の原因になっている等の実態を伝えました。人員不足によって勤務間インターバルが確保できなくなる懸念もあり、早急に改善が必要であると強く訴えました。

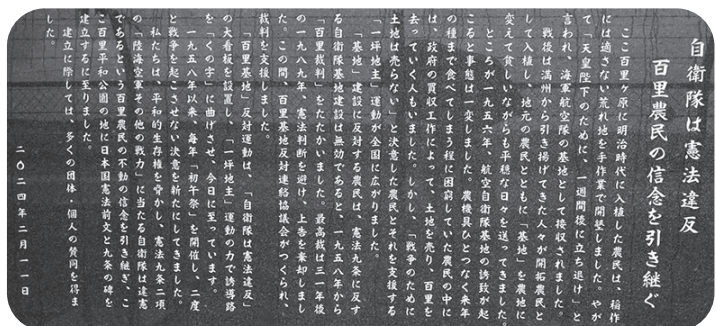


要請の様子



動く分科会には35人が参加。はじめに航空自衛隊百里基地・百里平和公園を見学しました。平和ガイドの伊達さん・梅澤さんから基地建設をめぐる百里基地闘争についてレクチャーを受けました。基地反対に立ち上がった8人の農民たちを中心に、たたかいによって基地用地として収用を許さなかった土地につくった百里平和公園から基地を一望しました。

筑波海軍航空隊記念館では、基地の司令部などを見学。1933年の国際連盟脱退のあと、戦力増強の一環として筑波海軍航空隊基地が作られました。当時、3000人の日本兵がおり、基地からは神風特別攻撃隊が出撃していました。戦後は病院として活用されました。



百里基地闘争のたたかいの歴史をつづった石碑



動く分科会

茨城の「戦跡めぐり」と、
基地反対の取り組みから「平和運動」を学ぶ

未来をひらく 実践交流

集い
学び
交流し

2日目は2カ所の会場に分かれて、12の分科会が開催されました。どの分科会も、ミニ講演やレポート発表をうけて、参加者同士が自分たちの経験も交えながら、意見交換をしていました。また「動く分科会」では、茨城の戦跡をめぐり、基地反対の取り組みから「平和運動」について学びました。



水戸市のマスコットキャラクター みとちゃん

分科会

第2分科会
「“健康づくり活動を地域住民とともに”―「孤軍奮闘」から『ともにつくる』への転換―」

第5分科会
「患者のための臨床検査」

第4分科会
「新たな精神医療へつながる「現状とこれから」を考える」

第1分科会
「地域を守る公共インフラとしての医療・社会保障の在り方を考えよう」

第3分科会
「人権が守られるより良い看護」

第6分科会
「病院給食を支えるすべての皆さまへーいのちを守る食の現場からの問題提起ー」

第7分科会
「『労働者』のいのちと健康を守る活動を考える」

第10分科会
「わたしたちが大切にしたい保育～院内保育所のあり方～」

第9分科会
「放射線医療従事者の職場環境と他職種連携に向けて」夜勤の実態や休暇制度、人員配置について考える」

第8分科会
「介護分科会」

第12分科会
「薬と社会」

第11分科会
「リハビリテーションの現場で求められるもの」

From青森
茨城は初めて！精神科の分科会に参加が楽しみです。学んで帰りたい。

From群馬
フォーラムの住民との繋がりの運動について生き生きと話されていて印象に残り、勉強になりました。

From茨城
清山先生の講演が聞きたくて仲間2人と参加です！

From長野
動く分科会に参加、レポート報告もします！

京都民医で副支部長頑張っています！友達と参加しました。初めてなので全部が楽しみです。

医療研in茨城の成功のために大奮闘された
茨城県医師連現地実行委員の皆さん

来年(第54回)はオンライン開催です。

全国女性集会 サンバインオータムに全国から集まろう

今年は2年に1度の全国女性交流集会「サンバインオータム」の開催年です。第9回目となる今年は静岡県で開催します。「しゃべれば、食べれば、学び行動すれば」の「サンバ」の取り組みを通じて交流し、女性協議会の運動をさらに力強く前進させるため、全国からの多くの参加を呼びかけます。

日 程：10月25日(日)14：00～26日(月)12：00（予定）

会 場：静岡県・御殿場高原「時之栖（ときのみか）」

内 容：

〈1日目〉

・記念講演「動き続けられる医療・介護・福祉の職場を作るためには」（仮）
講師（オンライン）上野千鶴子さん（東京大学名誉教授）

・基調報告

・「医療・介護ではたらくみんなの川柳」表彰式など

〈2日目〉

・分科会

①動く分科会

ヤクルト工場見学、えびせんべいの里

②ハラスメントをなくす「第3者介入ワークショップ」

③笑いヨガ

④ヨガ

※参加費・申込みフォーム等は決定次第、
発文書にてお知らせいたします。



被災されたらまず報告を

豪雨や台風など自然災害が続いています。豪雨・台風に際し、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。火災共済に加入されている方は、給付対象となります。給付申請のためには、被災直後の加入者自身の初期対応がとても大切です。

初期対応で大切なのは、①医労連共済への報告（住宅災害状況報告書の提出）②被害の記録（写真・屋根などの場合は業者見積りの際に撮影を依頼して下さい）③権限証明と修復のための見積り、です。被災直後の対応に

医労連共済だより

ついて周知をお願いします。

詳細は、パンフレットを参照して下さい。

風水害の給付は、実損額ではなく、被害に応じて段階的に限度額が設定されています。

被災部分だけでなく、経年劣化した部分も含め修復し、給付できなかったケースもあります。

経年劣化による雨漏りは対象となりませんので、ご注意ください。

近年、気候変動もあり台風被害も増えています。風水害にも給付がある火災共済加入で備えをしましょう。

医療の眼

民主主義の後退につながる議員削減を許すな

「日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し」とは、日本国憲法の前文の一節です。国会議員の数は民主主義に直結しますが、日本の議員数は、国民17・5万人にひとり

と先進国（G7）の中で最も少なく、議院発祥の国であるイギリスの半分強しかいません。その国会議員の定数を削減する法案が今国会に提出され、審議されています。

しかも、削減しようとしているのは、少数政党にとつては命綱であり、民意を最も正確に反映する比例代表の定数です。さらには、施行後1年以内に選挙制度協議会で結論が得られない場合、比例定数削減が自動的に発動する仕組みになっています。民主主義の後退につながる議員削減を、数の力で押し進めることは許されません。

戦争の惨禍につながる政府の行為を許すな

憲法前文の続きには、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し」とも記されて

憲法をまもる決意を全力で

います。先史時代はいざ知らず、戦争は政治によって起ると言っても過言ではありません。政府は、「日本を取り巻く安全保障環境の変化」を理由に急速に軍事化をすすめています。それは戦争の準備に他なりません。日本母親大会の第1回大会では、結成のきっかけとなったビギン2被災事件で亡くなった久保山愛吉さんの妻・すずさんが「ほんとうの母の愛情は、子どもを守ることだけではなく、戦争をやめさせることです」と訴えました。戦争はその準備の過程でも大切な人を奪い、子どもたちを不幸にする残忍な行為であることをあらためてかみしめる必要があります。自維政権の下で敵基地攻撃能力の保有、武器輸出の拡大など、「防衛」に名を借りた「軍拡」が加速しています。こうした「政府の行為」を許せば、再び戦争の惨禍が起ることになりかねません。

信頼に基づく平和の確立をさらに前文では「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しよう」と決意しています。

日本は、他国との信頼関係の下に平和を築くことを憲法で宣言し、自ら公正性を示すために憲法9条で戦争放棄をうたっています。

他国の信頼を勝ち取ってきました。戦後80年にわたって戦争に担担することなく、また、他国からの侵略を受けなかったのは、「崇高な理想と目的」を達成しようとする努力です。今、政府は、長年にわたって培ってきたその信頼を投げ捨て、抑止力Ⅱ軍事力による平和を築くとしています。しかし、それは際限のない軍拡を招き、やがては戦争につながっていきます。以前、麻生自民党副総裁は「強い抑止力を機能させる」ために求められるのは「戦う覚悟」だと発言しました。まさに、抑止力論の本質を突いているといえます。

「憲法まもれのたたかいは正念場

隣国を敵視し、危機感を煽って平和の歯止めを次々と塗り替える自維政権に対し、市民の声もかつてなく高まっています。各地では、ペンライトを掲げた若い世代による新しい運動の流れも生まれています。「憲法まもれ」が正念場の今、私たち一人ひとりが何をすべきかを考え、行動することが求められています。「日本国民は、国家の名譽にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ」

米沢 哲

最低賃金

全国一律実施 いますぐ1700円以上 めざせ2000円

2026年の最低賃金の改定を議論する中央審議会が6月26日から始まりました。これに先立ち、全労連・国民春闘共闘委員会は6月25日、「いますぐ全国一律1700円以上、めざせ2000円」を求めて第4次最賃デモを実施し、全国各地で宣伝や要請行動を展開しました。

厚労省前では、全労連・黒澤幸一事務局長が、低水準の最低賃金に急激な物価高が襲っており、物価分だけ上げても暮らし改善にはつながらないとして述べ、大幅引き上げや地域間格差を解消する全国一律制への法改正などを強く訴えました。日本医労連の米沢哲書記長は、審議会で「事業所に無理を強いることになるか



厚労省へ訴える米沢哲書記長

ら賃上げは難しい」との声があったことに對し、それならば労働者には無理を強いていいのか、労働者の生活が立ちゆかなくなれば、患者・利用者を守ることはできなくなると述べ、全国一律制と最低賃金の引き上げを訴えました。



沖縄県医労連

朝日の家労働組合

6月23日に沖縄県南城市にある「社会福祉法人以和貴会・特別養護老人ホーム朝日の家」で、上部団体を持たない組合を解散、同日に新組合の結成大会を行い、沖縄県医労連に加盟することを参加者の全会一致で確認しました。

職場では人手不足の中で職員が休憩も満足にとれない、利用者への食事介助も充分行えていない、休憩室もない状態でそのことを管理部に訴えても一向に解決せず意見を言うとボーナスが減らされるなどの見せしめ的な行為も行われ、パワハラも横行していました。

若い職員が入ってきても低賃金で辞めていくなど、今の労働環境を何とかしたいと思いながらも、要求書の作り方、団体交渉の持ち方など日常の組合運営に困難を抱えていたことから沖縄県医労連に相談がありました。働きやすい職場作りを目指して組合をもっと強くしていきたいとの思いから旧組合を解散し、新たな決意で新「朝日の家労働組合」として医労連に加盟しました。

結成大会には急な要請でしたが全国から多くのメッセージを頂きました。ありがとうございました。結成大会の翌日には、賃金引き上げや増員などの要求書を提出し7月中には第1回目の団体交渉を行う予定です。

今後ともよろしくお願い致します。